

客観指標評価

1 客観指標の重み付けと総合化

施策に複数の客観指標を設定した場合は、それぞれの指標の評価結果を合わせて、客観指標全体として評価する。

一つの施策に主指標と準指標の両方を設定した場合は指標の重みを考慮する。特段の理由がない場合、準指標の重みは主指標の2分の1とする。

2 客観指標評価の方法

- (1) 各指標の評価をそれぞれ点数化（a：4点，b：3点，c：2点，d：1点，e：0点）し、合計する。（準指標は主指標の2分の1）
- (2) 重み（準指標は主指標の2分の1）を含め、当該施策の客観指標評価の最高点（全ての指標がaであった場合の点数）を計算する。
- (3) 指標の合計点(1)の，最高点(2)に対する割合を客観指標の総合点とする。

具体的な算出例

1 施策に指標が3つ（主指標1，準指標2）の場合

① 評価結果を点数化し合計（準指標は主たる指標の2分の1）

指標Ⅰ（主）の評価 b → 3点 × 1（主）= 3点

指標Ⅱ（準）の評価 a → 4点 × 1/2（準）= 2点

指標Ⅲ（準）の評価 c → 2点 × 1/2（準）= 1点 ⇒ 計6点

② 最高点を計算

指標Ⅰ（主）の評価 a → 4点 × 1（主）= 4点

指標Ⅱ（準）の評価 a → 4点 × 1/2（準）= 2点

指標Ⅲ（準）の評価 a → 4点 × 1/2（準）= 2点 ⇒ 計8点

③ ①の②に対する割合を計算

6点（合計点数）/ 8点（最高点）= 75%

(4) 割合に応じて5段階で評価を行う。

a：80%以上 ～ 100%未満 (大変良い傾向にある)

b：60%以上 ～ 80%未満 (やや良い傾向にある)

c：40%以上 ～ 60%未満 ((傾向は) どちらとも言えない)

d：20%以上 ～ 40%未満 (やや悪い傾向にある)

e：0%以上 ～ 20%未満 (大変悪い傾向にある)

例では、60 < 75 < 80 となり、評価結果はbとなる。